

今こそ、税について考えるべきだ！

宇部市立藤山中学校 3年 白尾 駿弥

最近私は、今までと比べて言葉についての知識が増えたせいか、新聞やニュースに目を通すことが多くなりました。そのことから、今までは「難しいから。」と諦めていた税の仕組みについて知ることができ、興味がわいてきました。そこで、税に関する三つのことについて考えてみました。

一つ目は、税の使い方についてです。先日行われた、都、道、府、県知事選の記事を読んでいると、「当選後、税をどう使っていくか」が注目されていました。税は基本的に国民のために使われるものなので、国民からすれば、その使い道は投票する上での大事な決め手です。そのため、限りがある税をどのように使っていくのが良策か、先を見越しながらみんなで考えることが大切だと思いました。そうすることで、今、日本が抱えている問題が改善されていくと思います。

二つ目は、税の仕組みについてです。今現在、日本では物価高と円安によって、企業や消費者などの支出が増えています。そのため国による財源確保の施策として、増税が行われています。

ですが、物価が上がると、税を払う国民の給料も上がることになり、円の価値は今までと同じになると思います。よって、増税の効果はあまり長くは続かないと思うのです。そのため、増税よりも、働きやすい環境づくりをしたり、少子高齢化問題を改善したりして働く人を増やすほうを優先するとよいと思います。そうすることで、国が発展していき、増税しなくてもよくなると思います。

三つ目は、税の力についてです。今年度から、「森林環境税及び森林環境譲与税」という国税が追加されます。内容は、国内に住所のある個人に対してお金を徴収するというもので、国土の保全、水源の維持、地球温暖化の防止、生物の多様性の保全などを管理していこうというねらいがあるようです。

このことから、近年、新たな税（法律）を追加するほどの問題が起きているということがよく分かります。そして、その問題を解決する策として税が使われているということを踏まえて、どれだけ税の力が大きいのかということが実感できると思います。

以上のことから、特に、紛争や環境問題が絶えないこの時代、国の中のことだけでなく世界規模のことも変えられる税をどう使っていくのか、あるいは、どう付き合っていくのかを何度も考え、深めていくことが大切だと思いました。そうして得た知識で、未来をいい方向にもっていきたいです。